



大阪市高速電気軌道株式会社
代表取締役社長 河井英明

最高の安全・安心を追求し、 大阪から元気を創り続ける。

平素はOsaka Metroをご利用いただき、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、日夜ご尽力いただいている医療従事者をはじめとする皆さま、そして当社の感染症対策にご理解・ご協力いただいている皆さまに、心からお礼申し上げます。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、当社では交通インフラ企業としての責務を果たすべく安定した輸送サービスを維持し、またお客さまに安心・信頼してご利用いただけるよう、適宜、的確な取組みを行うための対策本部を立ち上げ、車内換気や毎日の車内消毒、車体の抗菌・抗ウイルス加工、お客さまへの啓発放送など、感染症対策に全力で取り組んでおります。また、近年、日本各地で深刻な気象災害が発生している事態を踏まえ、大阪での様々な大規模災害に備え、柱の耐震補強や線路の脱線対策、止水鉄扉の整備、災害時のお客さまの誘導訓練など、出来る限りの災害対策に努めております。加えて、

平時においても全てのお客さまに安全にご利用いただけるように、2025年度までの全駅ホームドアの設置、車両への防犯カメラの搭載、サポートの必要なお客さまへのお声がけと見守りの徹底など、多様な社会ニーズに応えるための取組みも進めており、今後も継続して取り組んでまいります。

当社が企業理念に掲げる「最高の安全・安心の追求」には、全社員が「安全はすべてに優先する」との強い決意を持ち、安全への意識を高め続けることが最も重要である、という思いを込めております。当社が大阪市交通局であった頃、ニュートラム住之江公園駅での列車衝突や長堀鶴見緑地線の重大インシデントなど、お客さまの命を奪いかねない事故を起こしてしまいました。私たちはこの事実を重く受け止め、二度と発生させないために、経営トップの強い意志の下、全社員の意識を高め、事故を風化させず、安全管理体制を強化し、培った知識と技術を次世代に継承する取組みを続けていく決意であります。

そのためには、日々の取組みこそが大事であり、社員の安全意識の向上はもちろんのこと、組織全体で安全を担保する体制が必要であると考え、2021年度は、組織を超えた横連携を強化し、会社全体にとって最適な方法で仕事を進めること、つまり「組織能力の強化」を安全管理体制強化のテーマに掲げました。この安全報告書では、このテーマの下で策定した安全重点施策に基づき、社員全員が今推進すべきことを考え、実行した取組みを紹介しています。

安全・安心の追求に終わりはありません。お客さまに信頼され、支持される企業を目指し、社員一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご協力とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。